（様式3）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272700566		
法人名	医療法人社団　千葉医心会		
事業所名	グループホーム　じょんから		
所在地	千葉県我孫子市布佐3078-9		
自己評価作成日	平成28年12月7日	評価結果市町村受理日	平成29年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5－1－33－602
訪問調査日	平成29年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

出来る限り入居者様に楽しんで生活して頂けるために、行事やレクレーションに力を入れています。年間行事の全てが同じ行事内容にならないように見直し、趣向を凝らして少しでも違う雰囲気の行事になる様に心掛けています。更に関連機関の催し物や地域の行事に参加させて頂くようにしています。又、年間行事だけでなく誕生日にお祝いの会（施設内、ご本人の希望する場所・喫茶店等に外出）を開催し、毎日レクの時間を設けて楽しんでいただいています。 毎日の食事に関しては、美味しい食事が提供できるように栄養士や食品納入業者と連携をとっております。入居者様その時どきの体調や症状にあった形態の食事を考え提供し、嗜好に合わせて臨機応変にメニューを変更する様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

最寄駅から徒歩8分程、スーパーに隣接し、訪問するにも買い物に行くにも便利です。
職員の異動が比較的少なく、高齢ながらも勤続年数の長い職員が多い事もあり、利用者に寄り添った心の籠った介護が行われている事が窺え、行事やレクリエーションも多く、今回外部評価にあたり実施した家族アンケートには、感謝の言葉や職員が明るくて優しい等の言葉にあふれています。
運営法人の理事長が医師で定期的に往診に訪れる他、訪問看護師の受け入れに加え施設長にも看護師を配して医療的ケアを手厚くしており、家族アンケートでは、超高齢で寝たきりに成りかねない状況から、一人でトイレに行きシルバーカーを押して歩ける様にまでなった等の声も出て、十分良い結果を出しています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元の人達と交流を持ちながら明るい家庭的な雰囲気を目指すという運営理念を掲げ、実践できる様に努めている。	運営理念を玄関などホーム内に誰にでも目に触れやすいように掲示しています。覚えやすいものであるだけに、職員は概ね理解しており、日常のケアの中で実践に努めている事が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○町内会に加入して、回覧板を回しあいさつを交わしています。 ○地域のお祭りの休憩所として駐車場を開放し、かき氷や豚汁を提供。	町内会では利用者も参加出来る行事はあまり無いようですが、地域のお祭りでは、山車が回ってくるので、テントを張って駐車場を休憩所として提供、地域での認知度を上げています。また、大正琴や畑・園芸のボランティアを受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	布佐地区社会福祉協議会の委員となり、月1回の会議に参加し、グループホームの説明や理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や意見等をいただき、職員会議での議題提供にて話し合い、サービス向上に活かせる様努めている。	会議は、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長等の外部メンバーの出席の下、毎偶数月に定期的に開催し、得られた貴重な意見をホームの運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールでのやり取りが主であるが、諸手続き等には役所に赴き、担当者からアドバイスを頂いている。その他運営推進会議にも毎回出席して頂いているので意見交流に努めている。	運営推進会議に市の担当者及び地域包括支援センター職員が出席してくれるので、親密さ、ホームへの理解が増し、良好な協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当するような行為があった場合はその都度話し合い、職員全員が拘束をしないように心掛けている。玄関の施錠は戸締り以外はしていないが、2階出入り口の施錠は認識の上で安全を重視して行なっている。	年間の研修計画に身体拘束排除も組み込んでおり、計画的に職員研修を行っています。2階出入り口の施錠はしていても、利用者に拘束感を抱かせる事の無いよう職員が配慮しています。	職員研修は行っていますが、禁止の対象となる具体的な行為について、全ての職員が完全に理解しているとは言えません。的を絞った研修が求められます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会を開き、身体的な虐待だけではなく、言葉による虐待もないように心掛けるようにしている。日頃から入居者の身体チェックを行い、報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会等を開いて学習の場を持ち、関係機関との連絡体制をとっている。（入居者2名成年後見人がついている）		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、空室発生時、契約時に十分な説明を行い、理解納得して頂けるよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱のご利用はほとんどありません。面会時やお電話等で意見やご要望をお聞きしております。また言いやすい環境作りに努め、その都度状況説明を行なっている。	家族に対して運営推進会議に順番に出席するよう依頼しています。その他の場は特に設けていませんが、来訪時や電話連絡の際に意見・要望を聞くように努めています。利用者については、介護相談員2名を受け入れており、介護相談員から参考になる情報を得る事もあります。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に意見を聞いたり、毎月の職員会議に意見を出し合っている。定期的に親睦会を開き、屈託の無い意見を述べられるようにしている。	古参の職員、高齢の職員も多いうえ、年2回懇親会を行っている事もあって、会議の時に限らず普段の業務の中でも率直に意見を交わす事が可能となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当てを取り入れ、職員のやる気に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員3名が介護福祉士実務者研修を終了しており、試験に望む。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月関連施設6つのグループホームの管理者が集まり、議題を決め意見交換しながら勉強している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くことが大切なことを職員全員に日々説明し、理解して笑顔でケアするよう心掛けてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様に信頼関係を築くことが大切であることを職員全員に理解してもらい、丁寧に接するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状態を日々観察し、その時々で必要な支援を見極め、ご家族と話し合い対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の出来ることを見極め、洗濯物たたみ・食器拭き・食事準備等の手伝いを行なってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に見えたときなど、お茶をいれ一緒に話をしたり、居室担当職員からの要望等を話しご家族と協力して入居者を支えていけるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人の来訪に関しては暖かく見守り、協力体制をとっている。かかりつけの病院の通院等も行なう。	家族の面会が多く、昔のコーラス仲間等の知人が来訪する事もあります。携帯電話を持っている人もいますが、外部からの電話の取次ぎを行ったり、家族との外出や墓参りを側面から支援する等関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握して入居者同志の相性等を考慮した上で食堂の席を決めたりする。職員が仲介の立場になって支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談にのるケースが増えている。関連施設に移動された方や退去されたご家族からの相談を受けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向を取り入れるよう心掛けている。	入居時に得た本人・家族からの情報を基本に、利用者個々の表情や何気ない会話から思い・気持ちを把握し汲み取るように努めています。意思疎通困難な場合は何気ないサインで確認しながら本人本位の支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用者から話しを聞き、情報を得るようにしている。極端に環境が変化しないよう、なじみの家具や物を自室において頂くように話をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態・様子観察を行い、心身状態の変化の把握に努め、ケース記録や連絡帳にも記録し共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各関係者と話をし、意見を反映させてケアプラン作りをするよう努めている。	毎日の個々のケース記録、申し送り内容や各居室担当者の意見を毎月の定例会議で確認し、診療情報提供書も参考にして定期的に3ヶ月毎に計画書を作成し直す他、状況に変化があった場合ば都度見直しを行っています。	介護計画書は作成され見直しもされていますが、計画が日々の介護に反映させるシステムが十分ではなく、モニタリングも適切でない面もあるので、モニタリング方法の改善が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、介護計画に活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所と連携をとり、対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議における民生委員の方からや又地区の何でも相談室からの情報等により支援体制を検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を尊重して受診するようにしている。 整形外科・眼科・歯科・腎臓内科	運営法人の理事長が医師で月2回訪問診療に訪れ、得意の楽器演奏で音楽療法を行っています。以前からのかかりつけ医を利用している人や眼科等には家族が対応していますが、緊急時や歯科等は職員が同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々状態把握に努め、訪問看護師と常に連絡をとり相談や看護支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは入院先のケースワーカーと連絡を密にとり、情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせて随時ご家族や主治医と看護師との連携を図り、その時の状態に合った支援ができるように努めている。ターミナルケアの学習会を行なう。	入居時家族に重度化に関して延命処置に関する要望書の内容を説明し、ターミナル同意書を取っています。重度化した場合は主治医と連携して利用者の状態に合わせ家族と話し合い対処しています。他の施設へ移る方法もあり、現在のところ看取りまでは行っていません。	今後ホームでの看取りを希望する家族が増える事も予想され、引き続き職員研修等看とりの体制を整えていくことが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会等で学び、緊急時にも対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練（個々に合った誘導・防災頭巾の着用）、防災設備の定期点検、食料の備蓄。	スプリンクラーが設置されているので比較的安心ですが、消防署立ち会いの夜間想定防火・避難訓練と、自主避難訓練を年に1回ずつ行っています。備蓄品を4日分程度そろえ、家族に防災頭巾の用意を依頼する等災害への備えに努めています。	職員全員が咄嗟の場合何を優先的に行なうのか、迷う事の無いよう皆で話し合い、近隣の人の協力が得られるよう親しい人を作っておく事、備蓄品の数量・内容の見直しを続けることが望まれます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重したケア・言葉かけが出来るよう努めている。職員には個別指導を行なう。	言葉かけ等を全ての職員がうまく行っている訳ではないので、問題のある都度注意しています。フランス生まれの新しい認知症ケアの手法ユマニチュードを内部研修で学んでおり、人格を尊重しつつプライバシーの確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人から思いや希望が表せない方もいらっしゃるが、なるべく問いかけを行い、表情や仕草から察知するよう、又出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まっているが、無理強いすることなく、新聞を読んだり、編み物をしたり、パズルやトランプ、将棋、囲碁を楽しめるような支援ができるようになってきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族にも協力して頂き、本人の意向を出来るだけ尊重した支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭き等できることを手伝って頂きながらその人の意欲を引き出している。職員も一緒に食事を摂り、楽しい雰囲気の中食べられるよう努めている。	食材と献立表が本部の手配で配送されて来て、職員が交代で調理しています。利用者も食材の下処理、テーブル拭き、下膳、食器拭き等出来る範囲で手伝っています。家族も参加してのテラスでのバーベキュー、回転寿司や誕生会での軽食・喫茶等の外食も楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量チェック表にて、毎食の食事・水分量を記入し、一日のトータル量を把握し、栄養補助剤の投与や夜間の水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学習会で学びあい、毎食後のうがいを行い、就寝前の口腔ケアをきちんとしている。（歯磨きや入れ歯の手入れを個々に行なう）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や申し送り等で情報を共有し職員がその人の排泄パターンを把握し、適切な支援が出来るように努めている。	職員は個々の排泄パターン表を確認の上声かけ誘導しています。常時オムツ装着の人には定時排泄介助を行っています。リハビリパンツから布パンツに改善した例もあり自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の学習会を行い、排便の有無を排泄チェック表を利用して把握し、便秘傾向のある方は医師や看護師に相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活時間帯の関係上、基本的には入浴時間は決まっているが、入浴の希望があれば添えるようにしたり、入るタイミングや入浴剤の使用などして入浴が楽しめるよう支援している。	入浴は基本的に毎日午後3人程、一人当たり3日に1度の割合で行っています。排泄で汚れた場合や拒否の強い場合等様々なケースには柔軟に対応しています。必要な場合は職員2名で介助を行います。水虫対策に足浴を行ったり、菖蒲湯等で変化を楽しめるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限りその人のペースに合わせ、否定せず支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者情報・薬箱に薬の効用を記載し、把握に努めている。セットして内服するまでの間に職員の人を替え2回のチェックを行い、食前薬や食後薬を声を出して確認する。症状の変化も観察して報告するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や入居者情報作成時に又その後もご家族等からの情報を頂き、その人に合った支援が出来るよう皆で共有する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等で定期的に外出できる機会が持てるように支援している。また毎日の散歩や買物、天気がいい日のベランダでの日光浴等を行い、また個別のドライブなど外に出る機会を作るように心掛けている。	天候の許す限り散歩や隣接するスーパーでの買い物に出かけたり、ベランダでの日光浴、畑でのボランティアとの作業等外気に触れる機会を設け、初詣、コスモスを含めた季節毎の花見、本部施設でのヴィラ祭り、外食等計画的に外出支援を行っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族に理解を求め、それぞれの能力に応じた支援をするように心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく落ち着いて過ごすことができるように、気温や湿度の管理や、定期的な掃除を行い、季節感のある花を置いたりして工夫している。	食堂とソファにテレビを置いた場所が見渡せる範囲内で少しずらしたレイアウトになっていて、全体に余裕があります。テーブルに水仙や菜の花を飾り季節感を味わえるようにし、調理コーナーからの音や匂いで生活感も十分です。玄関、廊下、トイレもゆったりした造りで、静かで落ち着いた生活を送れるように配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース、リビングソファー、ウッドデッキ、庭等があり、基本的には自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を用意して頂くようにご家族にお願いしている。それぞれに工夫されて生活されている。	居室は空調機、クローゼット、に加え洗面台が備え付けです。乾燥を防ぐため、家族に頼み加湿器を備えています。利用者はソファや机、椅子、テレビ等馴染みや好みの家具を持ち込み、写真を飾る等して、居心地良い部屋づくりが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考え方を大切にし、トイレの位置や使用の仕方を何回も教えて体得されている。歩行時も環境整備を考え、手すりを使用していただきながら見守りを行なっている。		